

各関係機関の長 殿

鹿児島県病虫害防除所長

令和6年度病虫害発生予察情報について

このことについて、発生予報第8号（11月）を発表したので送付します。

鹿児島県病虫害防除所

〒899-3401

南さつま市金峰町大野 2200

TEL 099-245-1081 (代表)

099-245-1157 (直通)

099-245-1149 (FAX)

テレホンサービス

鹿児島 099-296-6430

296-6431

ホームページアドレス：<https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiad/boujoshou/index.html>

メールアドレス：nousou-boujo@pref.kagoshima.lg.jp



農薬の安全使用に努めましょう

農薬安全使用五つの柱

1. 使用する人の安全 使用者自身の健康管理，安全使用
2. 作物に対する安全 適期，適正防除で薬害防止
3. 農産物に対する安全 消費者へ安全な農産物を供給
(農薬安全使用基準の遵守)
4. 環境に対する安全 周辺環境への影響防止
(周辺住民等への危被害防止)
(河川，湖沼，海等への汚染防止)
(養蚕，養蜂等への危被害防止)
5. 保管管理の安全 保管管理の徹底で事故防止

農薬ラベルを確認しましょう

農薬の飛散（ドリフト）にも注意しましょう

令和6年度 病虫害発生予報 第8号

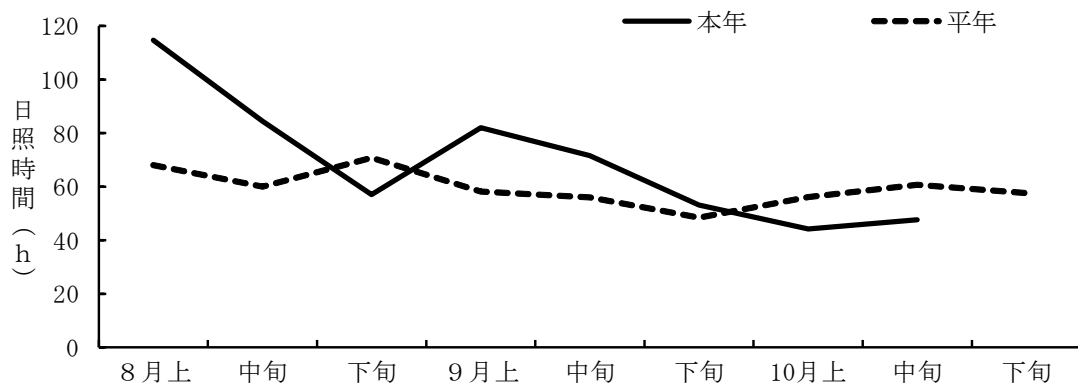
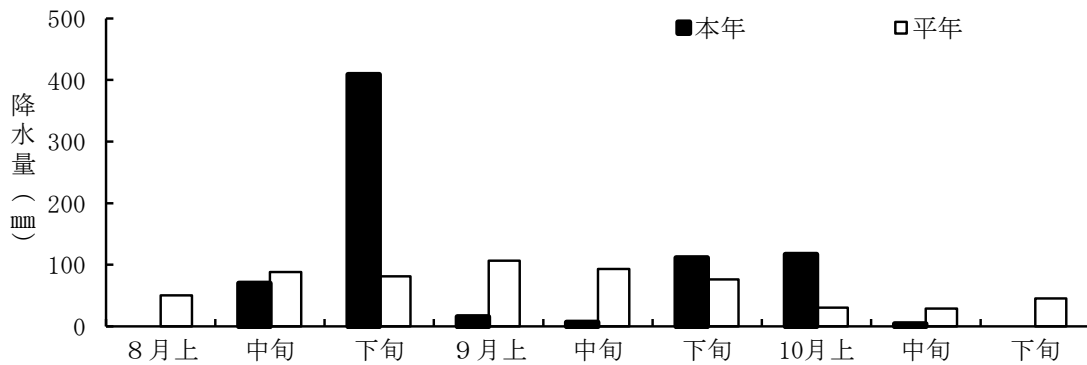
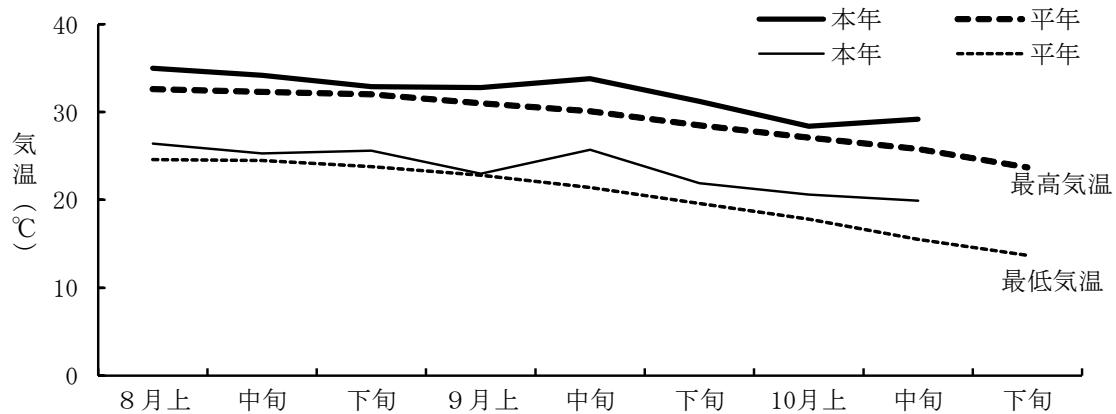
令和6年10月30日
鹿児島県病虫害防除所

【気象概況】

I. 向こう1か月の予報（10月26日から11月25日） 令和6年10月24日 鹿児島地方気象台 発表

要素	地域	確率（％）			概要
		低い(少ない)	平年並	高い(多い)	
気温	九州南部	10	10	80	両地方とも、気温は高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ない見込。
	奄美地方	10	10	80	
降水量	九州南部	10	40	50	
	奄美地方	10	30	60	
日照時間	九州南部	40	40	20	
	奄美地方	40	40	20	

II. 8～10月の気象情報（鹿児島地方気象台 観測点：加世田）



【病害虫発生予報の概要】

作物		病害虫名	発生量		
			現況	予報	
野菜	キュウリ	うどんこ病	やや少	やや少	
		アザミウマ類	並	並	
		コナジラミ類	やや多	多	
	トマト	コナジラミ類	並	やや多	
	ピーマン	アザミウマ類	やや多	多	
		タバココナジラミ	多	多	
	イチゴ	うどんこ病	やや多	やや多	
		炭疽病	やや少	やや少	
		ハダニ類	やや多	多	
		アザミウマ類	やや少	並	
	エンドウ類	うどんこ病	並	やや少	
		ハモグリバエ類	やや多	多	
		アザミウマ類	並	やや多	
	花き	キク	ハダニ類（県本土：施設）	少	やや少
			アザミウマ類（県本土：施設）	やや多	多
〃（奄美地域：露地）			やや多	多	
野菜・花き共通	エンドウ類，キャベツ等 アブラナ科野菜，ピーマン，イチゴ，キク等	ハスモンヨトウ	並～やや多	多	
	エンドウ類，キャベツ等 アブラナ科野菜，キク等	シロイチモジヨトウ	並～やや多	やや多	
果樹	カンキツ	かいよう病（果実）（県本土・熊毛地域）	少	やや少	
		〃（奄美地域）	やや多	多	
		黒点病（県本土・熊毛地域）	並	並	
		〃（奄美地域）	並	並	
		ミカンハダニ（県本土・熊毛地域）	やや多	やや多	
〃（奄美地域）	やや少	並			
茶樹	チャ	果実吸蛾類（県本土・熊毛地域）	多	多	
		カンザワハダニ	並	やや多	

【病害虫発生予報】

I. 普通作物

防除に関する今月の留意事項

1. サツマイモ

(1) サツマイモ基腐病

発生が見られたほ場では、次年度の発病リスクを軽減するために、以下の防除対策を徹底する。

<本ば、種いもほ場>

(収穫後の残さ対策)

ア 屑いもやしよ梗等の残さは、収穫後速やかにすき込みを行う。

イ すき込んだ後も定期的（1回/月程度）に耕耘して、残さの分解を促す。

ウ 本病が多発し、塊根被害が目立ったほ場では、次作はサツマイモ以外を2年程度輪作するか休耕する。

サツマイモ基腐病の生態と防除に関する詳しい情報は、鹿児島県 (https://www.pref.kagoshima.jp/ag06/documents/documents/74570_20240315133011-1.pdf)、農研機構 (https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/stem_blight_and_storage_tuber_rot_of_sweetpotator04.pdf) をご覧ください。



鹿児島県
サツマイモ基腐病防除
対策マニュアル(第4版)
令和6年3月改訂



農研機構
サツマイモ基腐病の
発生生態と防除対策
(令和4年度版)

Ⅱ. 野 菜

1. キュウリ

(1) うどんこ病

ア 予報内容

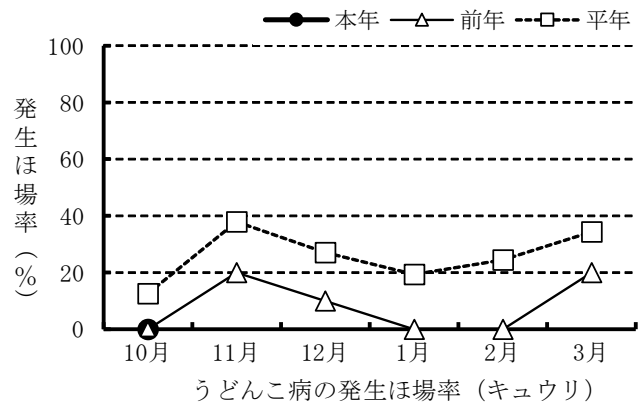
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 やや少

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや少
発生ほ場率 0% (平年13%)
：やや低い (一)

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 多発すると防除が困難になるため、ハウス内の見回りをを行い、早期発見と初期防除に努める。
- (イ) 発病葉は早めに除去し、ハウス外に持ち出して処分する。
- (ウ) 農薬は下位葉や葉裏に十分かかるよう散布する。
- (エ) 作用性の異なる農薬 (RACコード参照) のローテーション散布を行う。



(2) アザミウマ類

ア 予報内容

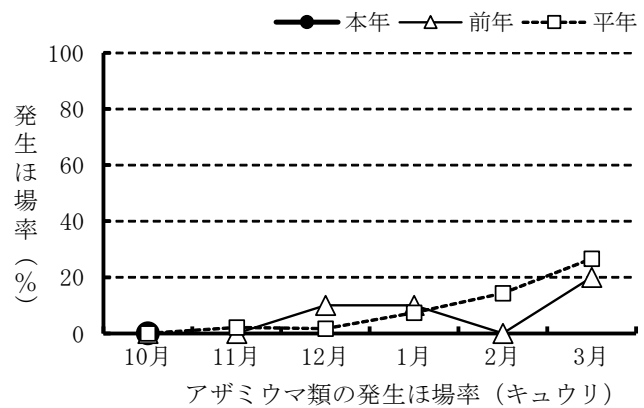
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 並

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：並
発生ほ場率 0% (平年 0%)：並

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) キュウリ黄化えそ病の病原ウイルス (MYSV) を媒介する。ハウス開口部 (サイド等) 等に粘着トラップを設置し、早期発見と早期防除に努める。
- (イ) 天敵を放飼するほ場では、放飼前の密度がその後の防除効果に影響するため、防除を徹底する。導入後は天敵への影響を考慮した体系防除を行う。
- (ウ) 作用性の異なる農薬 (RACコード参照) のローテーション散布に努める。



(3) コナジラミ類

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 多

イ 予報の根拠

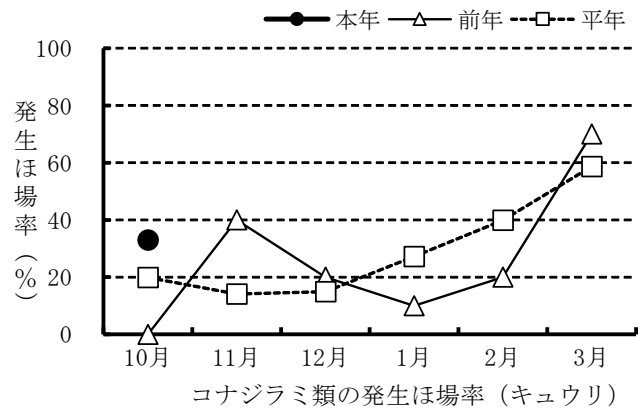
- (ア) 調査結果 発生量：やや多
発生ほ場率33%（平年19%）
：やや高い（+）

(イ) 気象予報

気温：高い（+）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) キュウリの退緑黄化病の病原ウイルス（CCYV）を媒介する。生育初期に本病が発生すると被害が大きくなるため、黄色粘着トラップを設置して早期発見と早期防除に努める。
- (イ) 天敵を放飼するほ場では、放飼前の密度がその後の防除効果に影響するため、防除を徹底する。導入後は天敵への影響を考慮した体系防除を行う。
- (ウ) 作用性の異なる農薬（RACコード参照）のローテーション散布に努める。



2. トマト

(1) コナジラミ類

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作型 促成栽培
- (ウ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

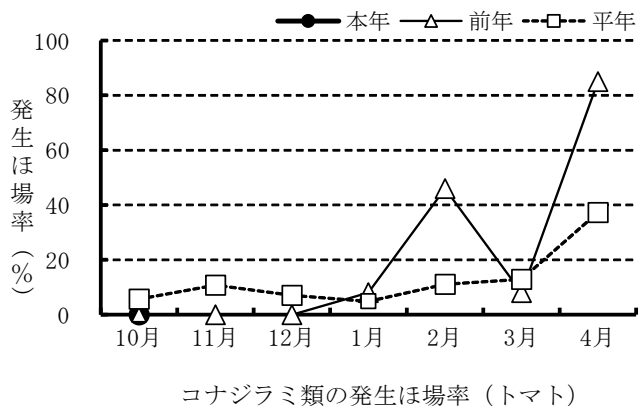
- (ア) 調査結果 発生量：並
発生ほ場率0%（平年3%）：並

(イ) 気象予報

気温：高い（+）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を媒介する。生育初期に本病が発生すると被害が大きくなるため、黄色粘着トラップを設置して早期発見と早期防除に努める。
- (イ) 天敵を放飼するほ場では、放飼前の密度がその後の防除効果に影響するため、防除を徹底する。導入後は天敵への影響を考慮した体系防除を行う。
- (ウ) 作用性の異なる農薬（RACコード参照）のローテーション散布に努める。



3. ピーマン

(1) アザミウマ類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 発生量 多

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：やや多

発生ほ場率50% (平年38%)

：やや高い (+)

(イ) 気象予報

気温：高い (+)

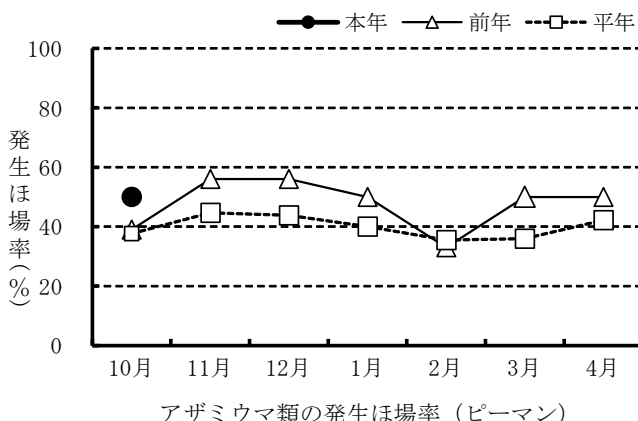
ウ 防除上注意すべき事項

(ア) ピーマン黄化えそ病の病原ウイルス (TSWV) を媒介する。ハウス開口部 (サイド等) 等に粘着トラップを設置し、早期発見と早期防除に努める。

(イ) 花や新芽の中など農薬のかかりにくい場所に生息するため、散布は丁寧に行う。

(ウ) 天敵を放飼するほ場では、放飼前の密度がその後の防除効果に影響するため、防除を徹底する。導入後は天敵への影響を考慮した体系防除を行う。

(エ) 作用性の異なる農薬 (RACコード参照) のローテーション散布に努める。



(2) タバココナジラミ

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 発生量 多

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：多

発生ほ場率94% (平年48%)：高い (+)

(イ) 気象予報

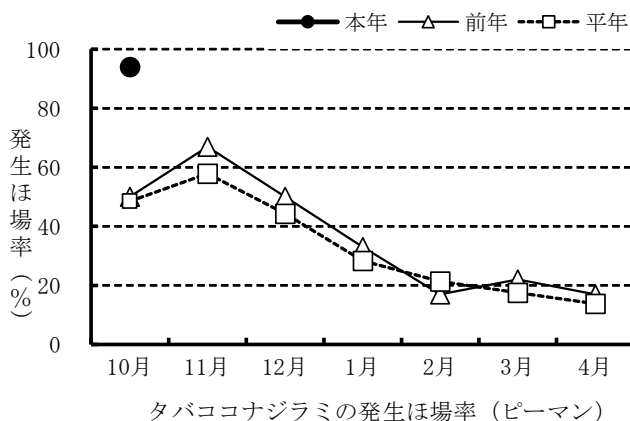
気温：高い (+)

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 多発するとすす病を発生させるため、黄色粘着トラップを設置して早期発見と早期防除に努める。

(イ) 天敵を放飼するほ場では、放飼前の密度がその後の防除効果に影響するため、防除を徹底する。導入後は天敵への影響を考慮した体系防除を行う。

(ウ) 作用性の異なる農薬 (RACコード参照) のローテーション散布に努める。



4. イチゴ

(1) うどんこ病

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 発生量 やや多

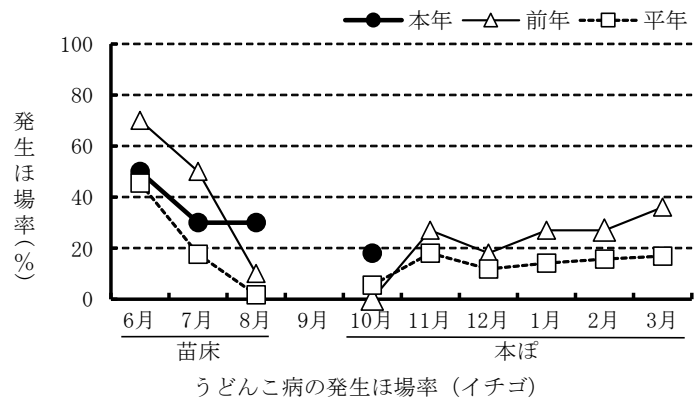
イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや多
発生ほ場率18%（平年5%）
：高い（+）

発生程度は低い（-）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 防除は予防に重点を置く。農薬は葉裏に十分かかるよう散布する。
- (イ) 上位葉に発生しやすいため、葉裏をよく観察し早期発見と初期防除に努める。
- (ウ) 作用性の異なる農薬（RACコード参照）のローテーション散布を行う。
- (エ) 発病葉などは早めに除去し、施設から持ち出して処分する。
- (オ) 窒素肥料の過多や葉が混み合うと多発しやすくなるため、適切な栽培管理を行う。



(2) 炭疽病

ア 予報内容

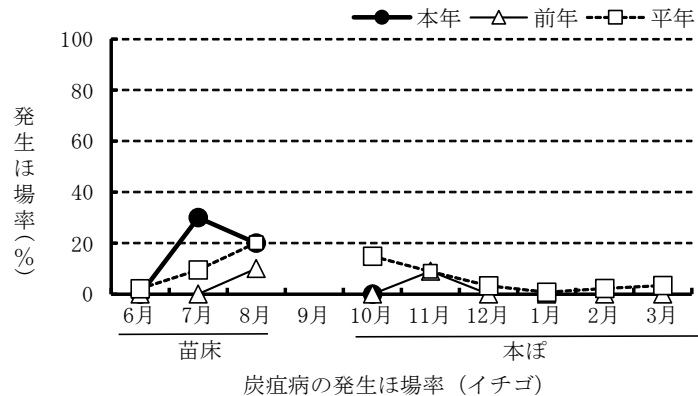
- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 発生量 やや少

イ 予報の根拠

- (ア) 調査結果 発生量：やや少
発生ほ場率0%（平年15%）
：やや低い（-）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 農薬による防除は、予防に重点を置く。予防散布は新葉の展開に合わせて行い、株全体にかかるよう十分量を散布する。発病が認められた場合は散布間隔を短縮する。
- (イ) 作用性の異なる農薬（RACコード参照）のローテーション散布を行う。
- (ウ) 萎凋した株や発病葉は早急に除去し、ほ場外で適切に処分する。



(3) ハダニ類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 発生量 多

イ 予報の根拠

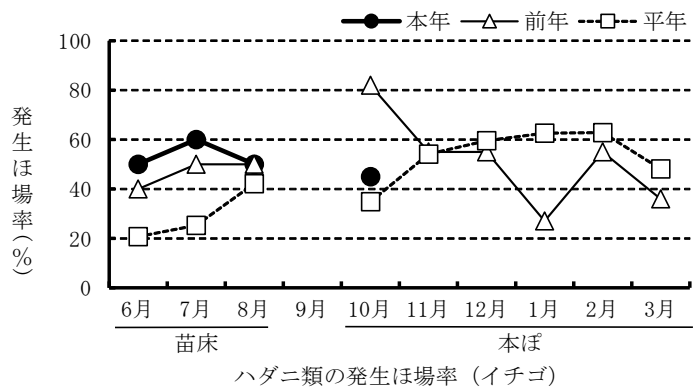
(ア) 調査結果 発生量：やや多
発生ほ場率45%（平年35%）：並
発生程度の高いほ場を認めた（+）

(イ) 気象予報

気温：高い（+）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 天敵を放飼するほ場では、放飼前の密度がその後の防除効果に影響するため、防除を徹底する。導入後は天敵への影響を考慮した体系防除を行う。
- (イ) 農薬の防除効果を高めるため、下葉かきを行ってから葉裏にかかるよう散布する。
- (ウ) 農薬によっては感受性が低下しているため、散布後は防除効果を確認する
- (エ) 作用性の異なる農薬（RACコード参照）のローテーション散布に努める。
- (オ) 農薬によっては、ミツバチに影響があるため薬剤選定に注意する。



(4) アザミウマ類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 発生量 並

イ 予報の根拠

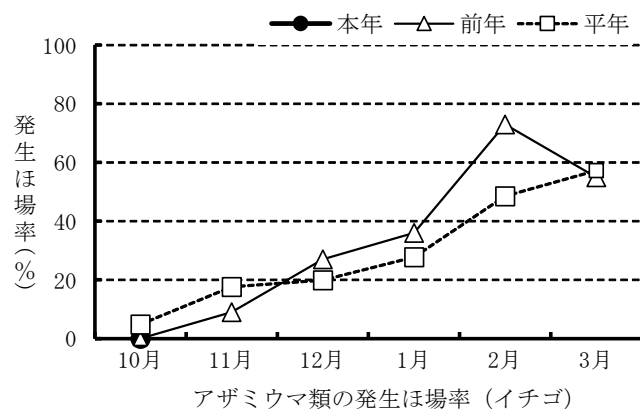
(ア) 調査結果 発生量：やや少
発生ほ場率0%（平年5%）
：やや低い（-）

(イ) 気象予報

気温：高い（+）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) ハウス開口部（サイド等）等に粘着トラップを設置し、早期発見と早期防除に努める。
- (イ) 花や新芽の中など農薬のかかりにくい場所に生息するため、散布は丁寧に行う。
- (ウ) 天敵を放飼するほ場では、放飼前の密度がその後の防除効果に影響するため、防除を徹底する。導入後は天敵への影響を考慮した体系防除を行う。
- (エ) 作用性の異なる農薬（RACコード参照）のローテーション散布に努める。



5. エンドウ類

(1) うどんこ病

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 発生量 やや少

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：並
発生ほ場率0%（平年1%）
：並

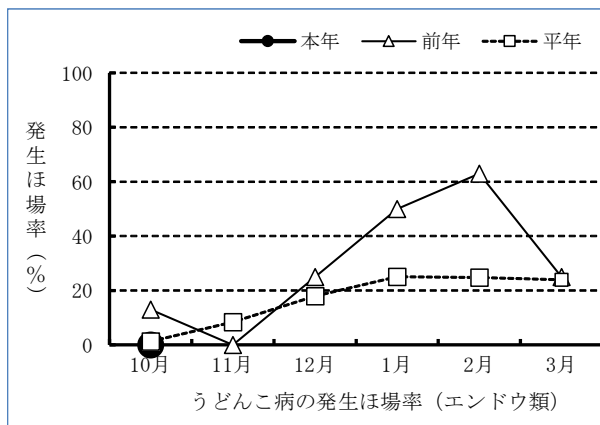
(イ) 気象予報

降水量：多い（-）

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 多発するとごま症の発生につながるため、早期発見に努め、発生を認めたら直ちに防除を行う。

(イ) 作用性の異なる農薬（RACコード参照）のローテーション散布を行う。



(2) ハモグリバエ類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 発生量 多

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：やや多
発生ほ場率38%（平年13%）
：やや高い（+）

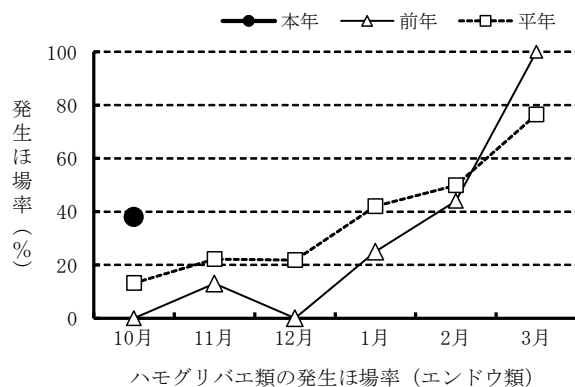
(イ) 気象予報

気温：高い（+）

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 多発してからの防除は困難となるため、初期防除に努める。

(イ) 作用性の異なる農薬（RACコード参照）のローテーション散布を行う。



(3) アザミウマ類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土

(イ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：並

発生ほ場率 0% (平年 1%) : 並

(イ) 気象予報

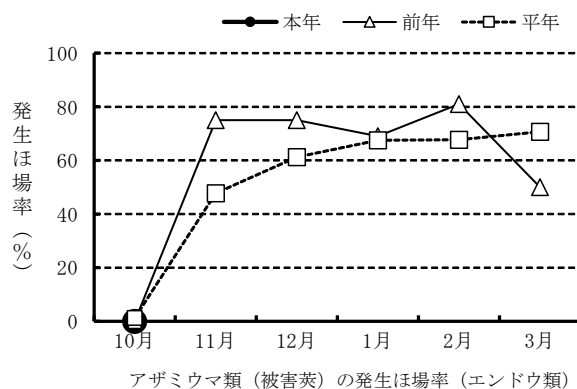
気温：高い (+)

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) エンドウ類の主な発生種はハナアザミウマで、若莢に産卵し、「白ぶくれ莢」となるため、若莢の被害や青色粘着トラップへの誘殺から発生状況を把握し、初期防除に努める。

(イ) 農薬のかかりにくい花卉の奥や若莢に寄生するため、丁寧な薬剤散布に努める。

(ウ) 作用性の異なる農薬 (RACコード参照) のローテーション散布を行う。



Ⅲ. 花き

1. キク

(1) ハダニ類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土（施設）

(イ) 発生量 やや少

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：少
発生ほ場率20%（平年35%）：少

(イ) 気象予報

気温：高い（+）

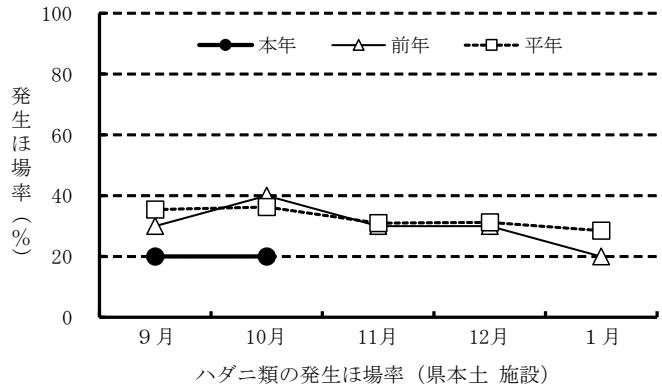
ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 出入口や前作での発生場所近く等でスポット状に発生するが多いため、ほ場全体をよく見回り、早期発見と早期防除に努める。

(イ) 薬液は葉裏までよくかかるように散布する。

(ウ) 作用性の異なる農薬（RACコード参照）のローテーション散布を行う。

(エ) ほ場内及びその周辺の除草に努める。



(2) アザミウマ類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県内全域

(イ) 発生量 県本土（施設） 多

奄美地域（露地） 多

イ 予報の根拠

<県本土（施設）>

(ア) 調査結果 発生量：やや多
発生ほ場率50%（平年38%）
：やや高い（+）

(イ) 気象予報

気温：高い（+）

<奄美地域（露地）>

(ア) 調査結果 発生量：やや多
発生ほ場率60%（平年38%）
：やや高い（+）

(イ) 気象予報

気温：高い（+）

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) アザミウマ類の発生動向を把握するには、出入口や開口部付近での青色粘着シートの設置が有効である。なお、クロゲハナアザミウマの誘引効率はやや低いと思われる。

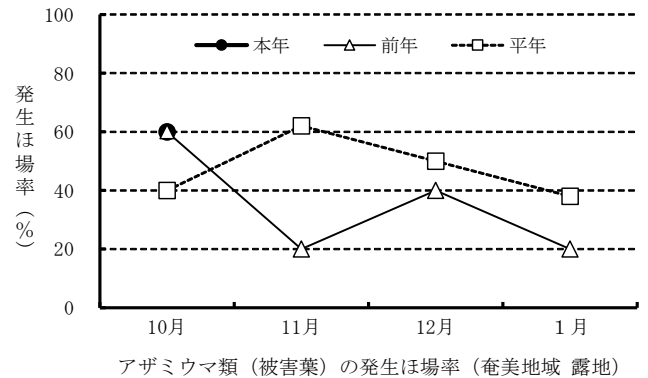
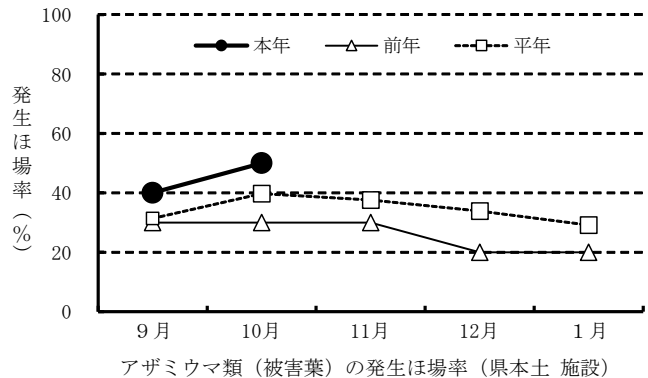
(イ) 作用性の異なる農薬（RACコード参照）のローテーション散布を行う。

(ウ) アザミウマ類は、キクえそ病の病原ウイルス（TSWV）とキク茎えそ病の病原ウイルス（CSNV）を媒介するため、ほ場への侵入防止と早期発見及び早期防除に努める。

(エ) クロゲハナアザミウマの発生が認められる場合、本種は主に中下位葉に寄生しているため、薬液は中下位葉の葉裏までかかるよう丁寧に散布する。

(オ) ほ場内及びその周辺の除草に努める。

(カ) 母株や苗は導入時に、アザミウマ類の寄生やウイルス病の発生がないか確認し、持ち込まないようにする。



IV. 野菜・花き共通

(1) ハスモンヨトウ (令和6年度技術情報第19号10月28日付参照)



ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県内全域
- (イ) 対象作物 エンドウ類, キャベツ等アブラナ科野菜, ピーマン, イチゴ, キク等
- (ウ) 発生量 多

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：並～やや多

作物名	発生ほ場率 (%)		概評
	本年	平年	
エンドウ類	75	20	多
キャベツ	25	20	並
ハクサイ	50	-	-
ピーマン	6	7	並
イチゴ	36	26	やや多
キク	10	6	並

注) ハクサイは令和6年度から調査のため平年値なし

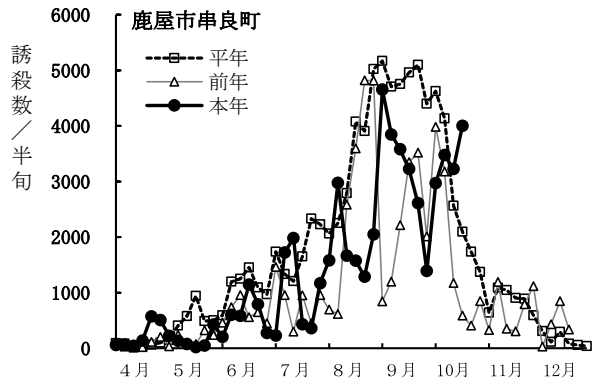
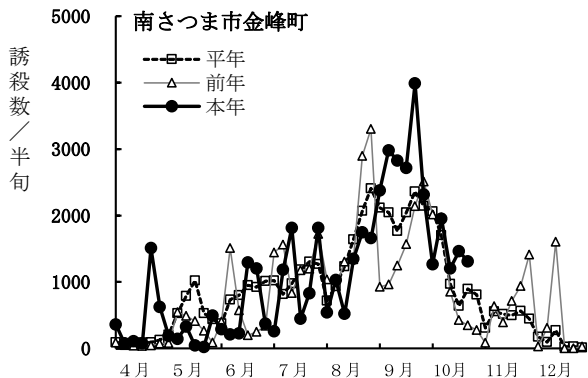
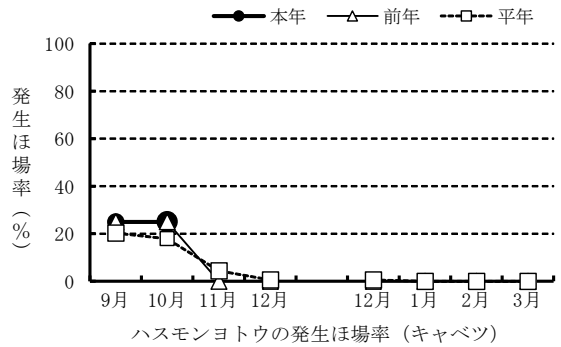
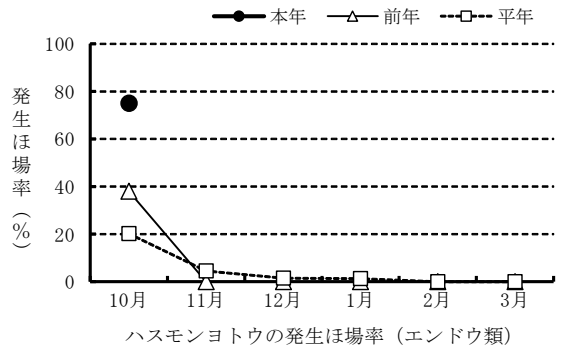
フェロモントラップ誘殺数：並～やや多

(イ) 気象予報

気温：高い (+)

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) ハスモンヨトウ若齢幼虫は集団で表皮を残して食害し白変葉を生じるため、ほ場を見回り早期発見に努める。
- (イ) 卵塊や分散前の若齢幼虫を発見したら、速やかに寄生葉を摘み取り処分する。
- (ウ) 老齢幼虫に対する農薬の効果は低いため、若齢幼虫のうちに防除する。
- (エ) 作用性の異なる農薬とのローテーション散布を行う。なお、一部のジアミド系農薬(プレバソンフロアブル5, フェニックス顆粒水和剤)に対して感受性低下が認められる。他の使用農薬も含め、散布後の効果を確認する。
- (オ) 施設栽培では、開口部に防虫ネットを設置し、成虫の侵入を防ぐ。なお、成虫はネット上などに産卵し、ふ化幼虫がネットの目をくぐり抜けて施設内に侵入することがある。



フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺状況 (10月25日現在)

(2) シロイチモジヨトウ

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
- (イ) 対象作物 エンドウ類, キャベツ
等アブラナ科野菜, キク等
- (ウ) 発生量 やや多

作物名	発生ほ場率 (%)		概 評
	本年	平年	
エンドウ類	38	12	やや多
キャベツ	0	3	並
キク	0	2	並

イ 予報の根拠

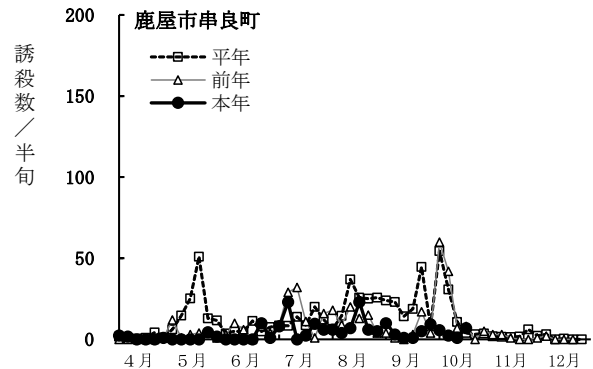
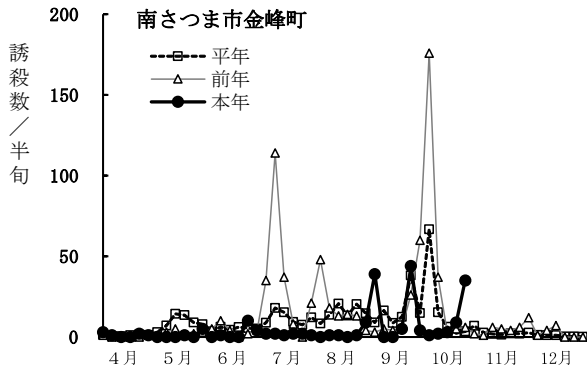
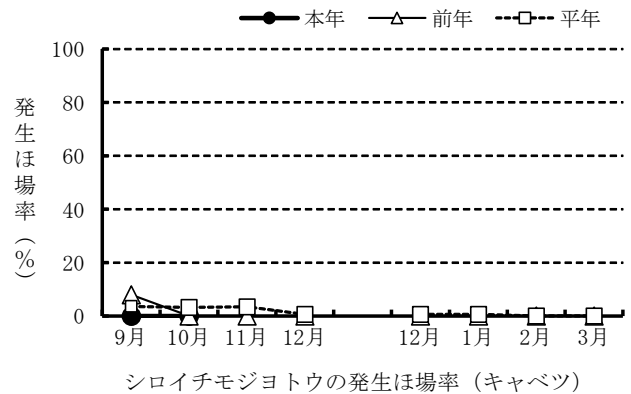
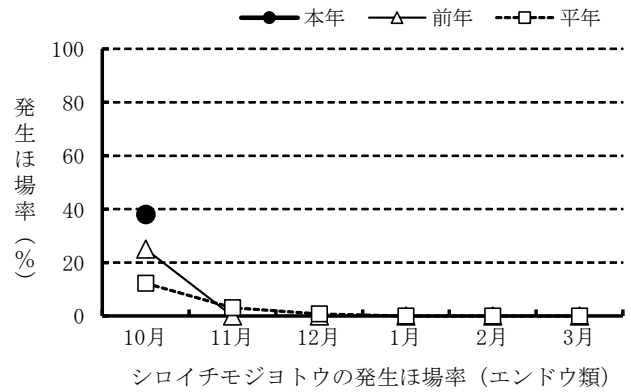
- (ア) 調査結果 発生量：並～やや多
フェロモントラップ誘殺数：並

(イ) 気象予報

気温：高い (+)

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 生育初期の被害が大きいため、卵塊や幼虫の寄生した葉はその都度摘み取り処分する。
- (イ) 薬剤防除は効果の高い若齢幼虫期に行う。
- (ウ) 作用性の異なる農薬 (RACコード参照) とのローテーション散布を行う。



フェロモントラップによるシロイチモジヨトウの誘殺状況 (10月25日現在)

V. 果 樹

1. カンキツ

(1) かいよう病

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県内全域

(イ) 発生量

県本土・熊毛地域(果実) やや少

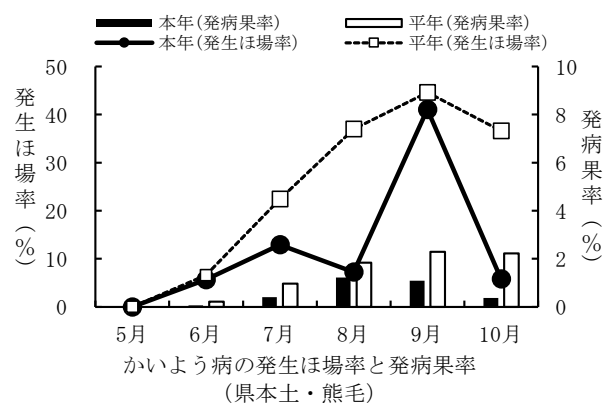
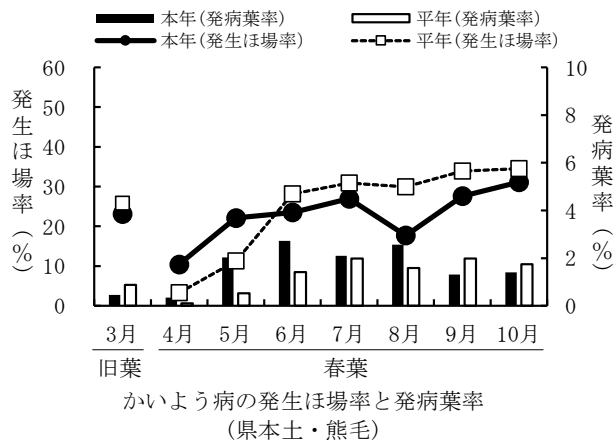
奄美地域(果実) 多

イ 予報の根拠

<県本土・熊毛地域>

(ア) 調査結果

	春葉	果実
発生量	並	少
発生ほ場率	31% (平年 35%) : 並	6% (平年 37%) : 低い (-)
発病率	1.4% (平年1.7%) : 並	0.4% (平年2.2%) : やや低い (-)



(イ) 気象予報

気 温：高い (+)

降水量：多い (+)

<奄美地域>

(ア) 調査結果

	春葉	果実
発生量	並	やや多
発生ほ場率	14% (平年 16%) : 並	29% (平年 10%) : 高い (+)
発病率	0.1% (平年0.1%) : 並	0.6% (平年0.2%) : 高い (+)

(イ) 気象予報

気 温：高い (+)

降水量：多い (+)

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 罹病葉を少なくするために、罹病した夏秋梢やミカンハマグリガの食害を受けた夏秋梢はせん除する。

(2) 黒点病

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県内全域

(イ) 発生量

県本土・熊毛地域 並

奄美地域 並

イ 予報の根拠

<県本土・熊毛地域>

(ア) 調査結果 発生量：並

発生ほ場率 58% (平年 64%)：並

発病果率 2.0% (平年13.5%)：低い (一)

<奄美地域>

(ア) 調査結果 発生量：並

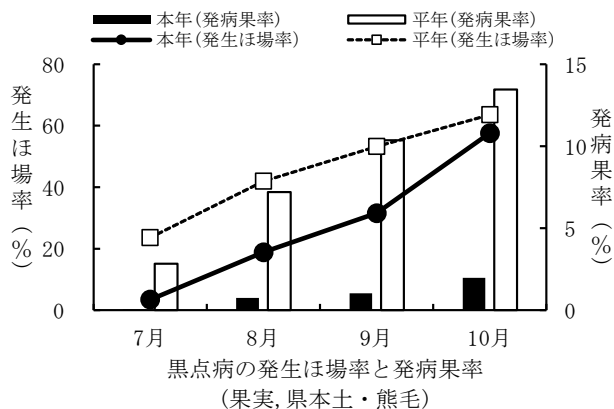
発生ほ場率 0% (平年 7%)：並

発病果率 0% (平年0.6%)：並

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 多雨が予想される場合には予防散布を行う。

(イ) 伝染源となる枯れ枝はこまめにせん除し、せん定くずは園外に持ち出して処分する。



(3) ミカンハダニ

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県内全域

(イ) 発生量

県本土・熊毛地域 やや多

奄美地域 並

イ 予報の根拠

<県本土・熊毛地域>

(ア) 調査結果 発生量：やや多

発生ほ場率 30% (平年24%)：並

寄生葉率 3.4% (平年3.2%)：並

発生程度の高いほ場を認めた (+)

<奄美地域>

(ア) 調査結果 発生量：やや少

発生ほ場率 0% (平年 4%)：やや低い (一)

寄生葉率 0% (平年0.4%)：並

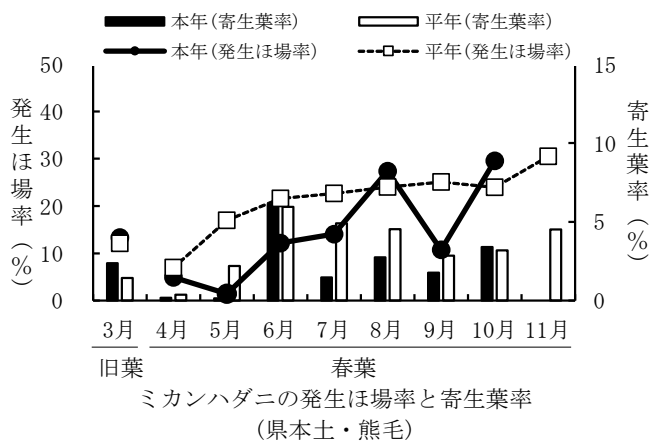
(イ) 気象予報

気温：高い (+)

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 1葉当たり雌成虫数0.5~1.0頭(寄生葉率で30~40%)を目安に防除する。

(イ) 作用性の異なる農薬(RACコード参照)のローテーション散布を行う。



(4) 果実吸蛾類

ア 予報内容

(ア) 発生地域 県本土・熊毛地域

(イ) 発生量 多

イ 予報の根拠

(ア) 調査結果 発生量：多

被害ほ場率35%（平年18%）：高い（+）

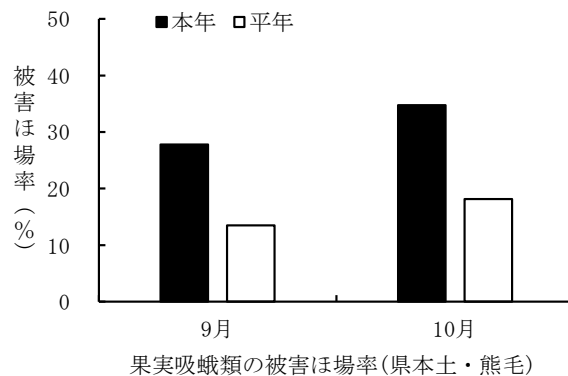
(イ) 気象予報

気温：高い（+）

ウ 防除上注意すべき事項

(ア) 夜間に活動し，果実を吸汁して腐敗落果させる。津之輝や大将季等は被害を受けやすい。

(イ) 夜温が高いと飛来・被害が遅くまで続くため注意する。防蛾網（7.5～10mm目）で被覆するほか，恒久的な対策として，黄色忌避灯を主体とした集団点灯を行う。



防除に関する今月の留意事項

【カンキツ】

1. サビダニ類

(1) 昨年多発したほ場では，発生する機会が多いため防除に努める。

(2) 県内のほぼ全域に生息するリュウキュウミカンサビダニは，秋季以降も果実上で加害し続けるため，被害果を認めたら直ちに防除する。

2. 貯蔵病害（青かび病，緑かび病，軸腐病）

収穫時の気温が高く降雨が多いと腐敗果が発生しやすい。なお，軸腐病の病原菌は黒点病と同じ菌であるため，黒点病の発生が多いほ場では注意する。

(1) 貯蔵を要する普通温州や中晩柑類は収穫前に必ず防除する。

(2) 防除薬剤は使用基準を厳守し，収穫予定日を想定し，収穫前日数に注意して選定する。

(3) 収穫時には果実に傷をつけないように手袋を使用し，果梗部の二度切りは丁寧に行う。

VI. 茶 樹

1. チャ

(1) カンザワハダニ

ア 予報内容

- (ア) 発生地域 県本土
(イ) 発生量 やや多

イ 予報の根拠

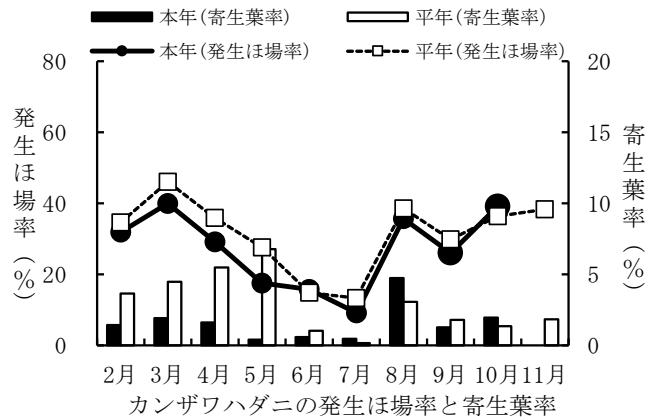
- (ア) 調査結果 発生量：並
発生ほ場率 39%（平年 36%）：並
寄生葉率 2.0%（平年 1.3%）
：やや高い（+）

(イ) 気象予報

気温：高い（+）

ウ 防除上注意すべき事項

- (ア) 越冬前のカンザワハダニの密度は翌春の発生量に大きく影響するため、秋整枝後に防除を行う。発生が多い園では秋整枝直後と11月中旬～下旬に防除を行う。
(イ) 天敵の活動が活発な時期なので、天敵に影響の少ない農薬を使用する。
(ウ) 農薬は、葉裏や裾部に薬液が十分にかかるように散布する。



防除に関する今月の留意事項

1. チャトゲコナジラミ

10月中旬の発生ほ場率は本年37%（昨年29%）で昨年より多い地点で認められている。多発するとほ場一面に成虫が乱舞し、作業性を低下させるほか、幼虫が寄生した枝ではすす病が発生し光合成能力を低下させる。

- (1) 秋整枝および裾刈りは、寄生葉が除去され密度低下が期待される。
- (2) 発生が多い園では秋整枝後に農薬を葉裏まで十分にかかるように散布する。
- (3) 本虫には天敵シルベストリコバチが有効なため、本天敵に影響の少ない農薬を使用する。

農薬の適正使用について

農薬は以下の点に注意して適正に使用しましょう。

1. 使用前にラベルや説明書をよく読む。
決められた対象作物・使用時期・回数・使用濃度等を守り、記載された用途、方法以外では使用しない。
2. 使用する農薬にあわせて、適切な防除衣、保護具（マスク・手袋等）を着用する。
3. 散布前には防除器具の整備・点検をする。
4. 体調がすぐれないときは散布作業を避ける。
5. 散布時には農薬がほ場の外に飛散したり、流出したりしないよう十分注意する。
6. クロルピクリン剤は、住宅地及び畜舎に隣接するほ場や、土壌が乾燥しているときは使用しない。注入後は直ちに穴をふさぎポリエチレンフィルム等で10日以上被覆する。
7. 毒性が強い農薬は、施設内や噴霧のこもりやすい場所では使用しない。
8. 使用期限の切れた農薬、不要になった農薬及び使用済みの空容器は適正に処分する。
9. 農薬は食品と区別し、鍵をかけて保管する。
10. 農薬の散布記録をつけておく。

「予報の根拠」の記載方法

- 調査結果の発生量は、前月の巡回及び定点調査による。
- 野菜類共通病害虫の発生量は、各作物での発生量やトラップ調査結果等に基づいた総合評価。
- 調査結果や気象予報等の末尾の（+）、（-）は、発生量の増加、減少要因を示す。
- 気象予報は、向こう1か月の長期予報。
- 平年値は原則として過去10年間の平均値を用いている。